1 インタビュー

企業のグローバルな経営改革に貢献するコンサルティングとICTソリューション

NTTコミュニケーションズは2014年8月、ICTを活用したお客さまの経営課題解決に向けた提案・コンサルティングの強化を目的として“ICTコンサルティング本部”を設置。同本部の取り組みについて、担当部長 高石将人氏に伺った。

お客さまにとって最適なICTの活用をグローバルでご提案

――ICTコンサルティング本部が担う役割と、発足から1年が経過した現状について教えてください。

高石　当社は“グローバルクラウドビジョン”のもと、ネットワークからデータセンター、クラウドなどのさまざまなインフラサービスを、世界共通の基準により提供しており、日系企業のみならず世界のお客さまにご利用いただいています。これらのサービスをより良くご利用いただくには、お客さまのご要望を伺いつつ、他社のサービスも組み合わせ、最適な導入を提案する「コンサルティング」が必要です。そうしたコンサルティングの経験やノウハウを業界横断で、グローバルに展開できる専門部隊として集められたのがICTコンサルティング本部です。

これまで数多くの実績を積み上げ、お客さまの経営改革に貢献しています。そのベストプラクティスをモデル化したものを“ソリューションモデル”と呼び、共通の課題をお持ちのお客さまへ効率的に展開する活動も進めています。

ベストプラクティスをモデル化した“ソリューションモデル”の展開

――ソリューションモデルにはどのようなものがありますか？

高石　グローバル経営の見える化を実現するクラウド型のERPソリューション(SAP、Dynamics AX)や、ワークスタイル変革を実現するコミュニケーションプラットフォームソリューションなど、現時点で10のモデルがあります（図1参照）。これらは仕様が定められたサービスではなく、お客さまのご要望に合わせ、いくつかのサービスを柔軟に組み合わせることにより実現するものです。実績のある組み合わせを展開することで、スピーディーかつ安定的な導入が可能です。日本での実績をもとに、今後はニーズを見極めながら海外にも展開していきたいと考えています。

カテゴリ	ソリューションモデル名
事業基盤統合・新規事業基盤	Microsoft Dynamics AX on Enterprise Cloud /Microsoft Azureソリューション
	Enterprise Cloud for SAPソリューション
	多拠点カメラクラウドソリューション
コミュニケーション変革	グローバル統合ID・アクセス管理ソリューション
	モバイル ワークスペース ソリューション
	コミュニケーション プラットフォーム ソリューション
	ユニファイド クラウド ソリューション
ICT基盤	ハイブリッド クラウド ソリューション
	インターネット ゲートウェイ ソリューション
	大容量ファイル転送ソリューション

図1　ソリューションモデルのラインナップ

NTTコミュニケーションズ株式会社
ICTコンサルティング本部
担当部長 **高石 将人**氏

“クラウドファースト”がICT導入のトレンド

――お客さま企業のICT導入に関するトレンドをどのようにご覧になっていますか？

高石　多くのお客さまが海外に拠点を展開し、M&Aを国内外で積極的に進める中で、ICT基盤を標準化し、統制していく流れが加速しています。海外展開をより柔軟かつスピーディーに進めるため、システムを個

別に構築するのではなく、クラウドなどを活用したインフラの共通化が求められるケースが増えています。そのようなお客さまに、当社の世界共通基準のインフラやオペレーションは高く評価されています。

また、基幹系のシステムでもクラウドの活用を条件とするお客さまが増えており、意思決定がより“クラウドファースト”になっていると感じます。かつてクラウドの活用には慎重であった金融業界においても、当社のクラウド導入実績が増えており、また、首都圏以外の製造業における引き合い件数の増加も目覚ましいものがあります。

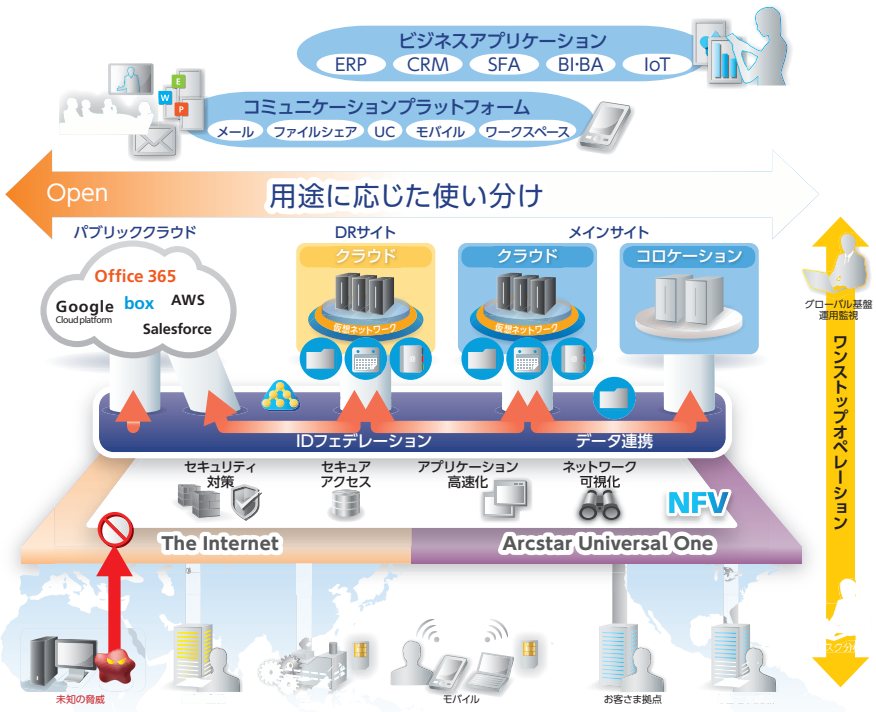

図2　トータルなICTソリューションのイメージ

——クラウド導入におけるお客さまの課題は？

高石　お客さまがSalesforceやOffice 365、AWSのようなパブリッククラウドを導入するケースが増えています。さまざまなクラウドをシステムごとに使い分けることも多く、お客さまのIT部門ではその統制やセキュリティが課題となっています。そのため、当社はネットワークが持つセキュリティや認証連携、パブリッククラウドへのダイレクト接続など、さまざまな付加機能を組み合わせ、ICTインフラ構築において生じる課題を解決できるソリューションをお客さまにご提案させていただいております（図2参照）。

新しい技術も活用しお客さまとともに事業変革にチャレンジ

——新しい分野への取り組みは、どのようなものがありますか？

高石　最近はさまざまなICTリソースをソフトウェアで制御する動きが広がっています。これを当社では“SDx”（Software Defined Everything）と呼んでいますが、サーバーの仮想化だけでなく、ネットワークやストレージ、インフラ全体の仮想化が進んでいます。また、ビッグデータなどのデータ解析は、解析の対象がテキストから音声や画像にまで広がり、人工知能（AI：Artificial Intelligence）も活用されはじめています。私どもはこうした新しい技術を積極的に取り込み、お客さまとともに事業変革にチャレンジしています。たとえばIoT（Internet of Things）によるビジネス変革や、音声認識技術を活用してコンタクトセンターの業務効率化や品質向上にも取り組んでいます。

——今後に向けた抱負をお聞かせください。

高石　日系企業だけでなく、そこで得たノウハウや当社のグローバルなインフラを活かして海外のお客さまへの導入実績をもっと増やしたいと考えています。そのためにはNTTグループ傘下のグループ企業をはじめ、さまざまなグローバルプレーヤーとの連携も重要なカギになります。そうして積極的に新しい技術を取り込んだICTコンサルティングにより、お客さまの事業変革をサポートしていきたいと考えています。

——本日は有難うございました。